

日本都市学会第73回大会開催のお知らせ

1. 開催概要

- 開催日 2026年10月23日（金）～10月25日（日）
金曜日：エクスカーション（午後）・理事会（夕方）
土曜日：研究発表（午前）・シンポジウム（午後）
日曜日：研究発表（午前）
- 主催 日本都市学会、中四国都市学会
後援 徳島市、徳島県、国土交通省四国地方整備局、徳島地理学会
開催地 徳島県徳島市
会場 徳島大学常三島キャンパス（徳島市南常三島町1丁目）
※学内駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください。
- アクセス JR徳島駅から路線バスで約5分、または徒歩約20分
JR新神戸・三宮駅から徳島大学前まで高速バスで約2時間 ほか京阪神・中四国から便あり
徳島阿波おどり空港から徳島大学前までリムジンバスで約25分
- 参加費 大会参加費 1,000円
エクスカーション参加費 1,000円
公開シンポジウムはどなたも無料で参加できます

2. 大会テーマ 「水辺空間と都市再生」

【要旨】都市は古くから河川や海と深く関わりながら発展してきた。しかし近代以降、多くの都市では治水や運輸機能が優先され、水辺は市民の日常生活から遠ざけられていった。一方、人口減少や中心市街地の衰退が進む今日、水辺空間は地域の魅力や活力を生み出す資源として改めて注目されている。徳島市は吉野川下流のデルタ地帯に築かれた城下町を起源とし、現在も大小百余の河川が市街地を流れる水辺都市である。市では「川とともに暮らす水都とくしま」を掲げ、新町川を舞台とする市民主体のまちづくり活動や、万代中央地区・新町西地区で都市再生の取り組みも展開されている。本大会では「水辺空間と都市再生」をテーマに、水辺が都市にもたらす公共性や豊かな都市生活の可能性について考える。河川や港湾を活かしたまちづくり、中心市街地活性化、防災、観光、市民参加など、多様な視点から持続可能な都市のあり方を議論したい。

キーワード：かわまちづくり、親水空間、中心市街地活性化、再開発事業、市民参加、官民連携

3. スケジュール

【10月23日（金）】

13:00～17:00 エクスカーション

徳島市中心市街地の水辺空間と都市再生の現場を徒歩とクルーズで巡ります。

集合時間 13:00

集合場所 徳島駅前再開発ビルアミコビル4階 シビックセンター活動室（3）

<https://www.civic-center.jp/rent/>

案内者 畠山輝雄（鳴門教育大学）、池添純子（鳴門教育大学）ほか

コース 徳島市・徳島県の政策担当者による概要説明－藍場浜公園－新町西地区再開発事業－新町川を守る会「ひょうたん島クルーズ」－万代中央ふ頭アクア・チッタ

参加費 1,000円（クルーズ乗船料、資料代等を含む）

募集人数 30名程度（申し込み順）

18:00～20:00 理事会

会場 エクスカーション集合場所と同じ

【10月24日（土）】

9:00～12:00 研究発表Ⅰ

会場 徳島大学 総合科学部1号館302講義室ほか

13:00～16:30 公開シンポジウム「水辺空間と都市再生」

主催 日本都市学会、中四国都市学会、徳島大学

後援 徳島市、徳島県、国土交通省四国地方整備局、徳島地理学会

会場 徳島大学常三島キャンパス 地域連携プラザ2階 常三島けやきホール

タイムテーブル

13:00～14:30 第1部 基調講演

司会 金西計英（徳島大学人と地域共創センター長）

13:00～13:20 主催者挨拶と趣旨説明

山崎 健（日本都市学会会長）、藤本真路（徳島大学副学長）、豊田哲也（中四国都市学会会長）

13:20～13:55 基調講演（1）

久 隆浩（近畿都市学会会長）「都市と水辺空間の関係ー過去・現在・未来」

13:55～14:30 基調講演（2）

瀬尾 守（徳島市副市長）「水都とくしまのまちづくり」

14:30～14:40 休憩

14:40～16:20 第2部 パネルディスカッション

コーディネーター 豊田哲也（徳島大学教授）

パネリスト

長谷川晋理（NPO法人 新町川を守る会理事）

岡部斗夢（NPO法人 アクア・チッタ事務局長）

現在調整中（国土交通省四国地方整備局）

コメンテーター

矢部拓也（徳島大学教授）

平 篤志（香川大学教授）

16:40～17:10 日本都市学会賞授与式

17:10～17:40 日本都市学会総会

18:00～19:00 茶話会（参加費無料）

会場 徳島大学 地域連携プラザ1階 多目的室

例年の懇親会に代わるものとして、ソフトドリンクと簡単なフィンガーフードを提供します。
シンポジウム登壇者も参加予定。情報交換と交流の場としてお気軽にご参加ください。

【10月25日（日）】

9:00～12:00 研究発表Ⅱ

会場 徳島大学 総合科学部1号館302講義室ほか

4. 研究発表の募集

(1) 申込資格

- ・発表申込者は会員（入会手続き中のものを含む）に限ります。
- ・口頭発表は1人1回限りとします。

- ・共同発表の場合、共同発表者全員の氏名、所属を明記するとともに、口頭発表者（1名のみ）に○印をつけてください。
- ・共同発表者の中に非会員を含めることはできますが、『日本都市学会年報』への投稿時には、著者全員が会員である必要があります。
- ・発表申込後の発表者・共同発表者の変更、発表タイトルの変更は追加はできません。

※論文を投稿される際、査読付き論文の提出期限は、2026年11月30日必着、無審査論文の提出期限は、2027年4月20日必着です。

(2) 申込方法

- ・研究発表を希望される方は、下記URLにアクセスし、必要事項を入力してお申し込みください。
- ・発表申込の締切は、8月31日（月）〔期限厳守〕とします。
- ・大会参加申込は別になりますので、ご注意ください（以下「5. 大会参加申込」を参照）。
- ・入力フォームにある「大会テーマ分科会」とは大会テーマに関連を持つ発表を集めた分科会、「自由テーマ分科会」とはそれ以外の分科会です。なお、申込みが少ないなどの理由で大会テーマ分科会が成立しなかった場合は、自由テーマ分科会に割り振らせていただきますのでご承知おきください。
- ・発表日時について、発表者の希望はお受けできませんのでご了承ください。プログラムが確定したら、大会HPでお知らせします。

研究発表申込：

<https://forms.gle/uztPvjS5K6bpZiTQ6>



(3) 発表要旨の提出

- ・発表要旨のワードファイルと PDF ファイルを電子メールに添付し、件名を「徳島大会要旨（ご氏名）」として、下記アドレス（中四国都市学会事務局）にお送りください。
- ①論文書式テンプレートをダウンロード（2ページ）
- ②9月14日（月）〔期限厳守〕

発表要旨受付：

office@cs-su.jp

(4) 発表申込・発表要旨の確認

- ・研究発表の申込や発表要旨の提出をした場合、担当者から受信確認のメールを送りますので、必ずご確認ください。
- ・申込み後3日以上経っても受信確認メールが届かない場合は、以下の問い合わせ先（中四国都市学会事務局）にお問い合わせください。

(5) 発表要旨集

- ・今年度大会では、発表要旨集の印刷や配布はおこないません。
- ・PDF版の発表要旨集は大会当日までに学会HPで公開しますので、各自でダウンロードしてご利用ください。

5. 大会参加登録

- ・研究発表をしない方も、研究発表やシンポジウム、エクスカージョンに参加される方は、下記URLにアクセスし、必要事項を入力してお申し込みください。

- ・参加登録の締切は10月9日（金）です。

参加登録：

<https://forms.cloud.microsoft/r/077ZqAV8ve>



- ・参加費は10月9日（金）までに下記口座へ振込みをお願いします。手数料は各自ご負担ください。

納入方法（以下のいずれかの方法でお支払いください）

- ①銀行口座送金：銀行名：ゆうちょ銀行
店名：一三九（イチサンキュウ）店
預金種目：当座
口座番号：0069716
加入者名：中四国都市学会
- ②郵便振替：口座番号 01300-4-69716
加入者名 中四国都市学会

6. 大会に関する問い合わせ先

中四国都市学会事務局

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1

広島修道大学商学部 川瀬研究室 気付

TEL：082-830-1210

E-mail：office@cs-su.jp

※件名を「徳島大会問い合わせ（ご氏名）」としてください。

7. 宿泊案内

- ・徳島市内には宿泊施設が限られていますので、各自で早めの予約をお勧めします。
- ・参加登録時に、宿泊日と予約済みホテルが決まっていればお知らせ下さい。情報は徳島県観光協会のコンベンション助成の申請にのみ使用します。

8. 昼食案内

- ・今年度大会では、昼食用弁当の手配について申込みや受け付けをおこないません。
- ・大学生協食堂および売店は、土曜日・日曜日とも営業していません。
- ・昼食は、会場周辺の飲食店またはコンビニエンスストアをご利用ください。
- ・シンポジウム会場内および研究発表に使用する講義室での食事はご遠慮ください。

9. アクセス情報

- ・徳島市へのアクセスは徳島県観光情報サイトをご参照ください。

<https://www.awanavi.jp/access>

- ・会場へのアクセスは徳島大学のサイトをご参照ください。

https://www.tokushima-u.ac.jp/access/shinkura_josanjima.html



大会実行委員会

実行委員長：豊田哲也（徳島大学）

ソフト部門：川瀬正樹（広島修道大学）、川田力（岡山大学）、北川博史（岡山大学）、藤塚吉浩（大阪公立大学）

ハード部門：池添純子（鳴門教育大学）、奥嶋政嗣（徳島大学）、畠山輝雄（鳴門教育大学）

水辺空間と都市再生

日本都市学会会長 山崎 健
中四国都市学会会長 豊田 哲也

都市は古来より河川や海と深く関わりながら形成されてきた。水辺は交通や物流を支える基盤であるとともに、人々の暮らしや産業活動を支え、景観や文化を育む空間として重要な役割を果たしてきた。しかし近代以降、都市化や産業化の進展に伴い、多くの都市では治水や運輸機能が優先され、水辺は市民の日常生活から次第に遠ざけられていった。河川や港湾は管理の対象として囲い込まれ、人々と水辺との関係は希薄化したのである。

一方、水辺空間の活用は都市研究や都市政策において旧くて新しいテーマである。欧米では港湾や運河の再開発を通じたウォーターフロント開発が進められ、日本においても 1980 年代以降、水辺を活かした都市開発や都市観光の取り組みが各地で展開されてきた。しかし、人口減少や少子高齢化が進む今日、公共空間の利活用、地域コミュニティ、市民参加、持続可能性といった観点から水辺空間を捉え直す必要性が高まっている。国土交通省の「かわまちづくり」に代表されるように、水辺を地域の魅力や活力を創出する資源として位置づけ、都市空間と一体的に活用する取り組みが全国で進められている。

しかし、水辺空間の活用は単なる景観整備や観光振興にとどまるものではない。そこには公共空間を誰がどのように維持・利用し、将来へ継承していくのかという都市の根源的な課題が含まれている。行政、企業、市民、NPO など多様な主体の連携はどのように可能なのか。歴史的環境の保全と新たな都市機能の導入をいかに両立させるのか。また、水辺は都市に豊かな環境をもたらす一方で、洪水や高潮、津波などの災害リスクとも隣り合わせの空間である。水辺の価値を活かしながら、安全性にも配慮した持続可能な都市をどのように形成していくのかも重要な課題となっている。

徳島市は 16 世紀末に吉野川下流のデルタ地帯に築かれた城下町を起源とし、現在も大小百余の河川が市街地を流れている。その水系は都市の歴史と空間構造を今日に伝えている。近年は「川とともに暮らす水都とくしま」を掲げた親水空間整備に加え、新町川を舞台とする市民主体のまちづくり活動、万代中央地区における倉庫群の利活用や新町西地区の再開発など、水辺空間を活かした都市再生の取り組みが進められている。徳島は、水辺と都市との関係を考えるうえで示唆に富む都市である。

水辺は都市にどのような公共性をもたらすのだろうか。人々は水辺を通じてどのように都市に関わり、豊かな都市生活を形成していくのだろうか。本大会では、「水都とくしま」を開催地として、水辺空間と都市再生をめぐる諸課題について議論したい。河川や港湾を活かしたまちづくり、中心市街地活性化、景観形成、防災、観光、地域コミュニティの再生など、多様な視点から事例と研究成果を共有し、水辺と共生する持続可能な都市のあり方を展望する。水辺空間を、都市の歴史・文化・経済・社会を結びつける基盤として捉え直し、これからの都市再生の方向性を考える機会としたい。